Vol. 174 2018.2.15

理事長トーク Top Interview

第12回 TQM活動発表セミナーを終えて

医療法人社団 健育会 理事長 竹川節男

平成30年2月10日（土）、東京コンファレンスセンター・品川にて、健育会グループ第12回TQM活動発表セミナーを開催しました。

今回のTQM活動発表セミナーには、審査員4名・ご来賓21名に加え、健育会グループからは医師・看護師・薬剤師・放射線技師・臨床工学技士・理学療法士・言語聴覚士・作業療法士・介護福祉士・事務・管理栄養士・調理師・ケアワーカー・医療相談員・介護支援専門員と他職種に渡る職員約200名が集いました。

セミナーの冒頭、私からは以下のような話をしました。

TQM活動発表セミナーも12回目となりました。抄録を見て、「継続は力なり」ということを感じました。それはどういう事かと言いますと、日々の業務に密接に関わっている演題が多いことです。TQM活動発表セミナーを始めた当初は、TQM活動発表セミナーのためのTQM活動というような演題が散見されていましたが、本日は演題から「日々の業務の中でもっと改善しなければと感じて、具体的に活動に取り組んだ内容」であると感じました。そこから、職員の皆さんが日々、「医療・介護の質を上げる」「業務を改善する」ということに真剣に取り組みながら仕事をしている姿が、私の頭の中に浮かびました。

TQMはトータル・クオリティ・マネジメントの略です。マネジメントというのは、「人が物や情報、時間を使って物事を成し遂げる」ことです。そしてトータル・クオリティ、すなわち、「医療・介護の質」あるいは「今までよりも、より効率的な業務」をマネジメントすることが、TQM活動の目的です。しかしTQM活動をTQM活動としてだけで終わらせてしまうと、この活動の意味が半減してしまいます。TQM活動の成果を、是非、病院・介護施設全体の運営の力にしてほしいと考えています。そのためには２つの方法があります。

１つは、TQM活動の成果を、病院・施設全体に浸透させていくことです。もし今までの業務とやり方が違うのであれば、TQMのチームのやり方をベースに、職員の皆さんがその新しいやり方に沿って業務を改善していくことが必要です。

またもう１つは、TQMの考え方や手法を、日々の業務に取り入れていくことです。例えば、日常的に起こり得る例として、病棟で突然スタッフが辞めてしまって、ある期間を少ない人数で病棟運営を行なっていかなければならなくなるようなこともあるかもしれません。そのような時も、皆がパッと集まって簡易的なチームを作り、どうしたら少なくなった人数で、質を落とさずに業務を遂行していくかということを話し合い、問題を解決していくことです。

このように日常にTQM活動のやり方が浸透させることができれば、TQM活動発表セミナーを12回も開催してきた甲斐があると感じています。今日の発表を非常に楽しみにしています。

今回のTQM活動発表セミナーでは、石巻健育会病院 院長 勝又 貴夫先生が座長を務め、各病院・施設よりグループ内地区予選を勝ち抜いた、17の改善事例が発表されました。

発表《前半》

1	「しおん」のPRポイント ～職員全員！認知症なんて怖くない～ 介護老人保健施設しおん 認知症知ってる隊
2	ケアワーカーによるオムツはずしプラン立案率の向上 石巻健育会病院 わん・つー・すてっぷ！
3	舟渡デイサービスにおける余暇時間の充実化 舟渡高齢者在宅サービスセンター ざいせん
4	食事セットにおけるインシデント発生件数の削減 西伊豆健育会病院 チューボー
5	自然な排便を目指そう ライフサポートひなた チームスッキリ
6	小児リハの質を向上したい！～訪問時のスタッフ不安軽減を目指して～ ひまわり訪問看護ステーション 不安軽減戦隊 ひまわりレンジャー
7	質向委員会の内容の周知率を向上させる ～議事録のフォーマットの変更を行う～ ケアセンターけやき　質向委員会
8	身体抑制をしない！させない！ ～抑制0への取り組み～ いわき湯本病院 チームZERO
9	トイレ移乗ができる患者の尿失禁をなくす 花川病院 Flower river

発表《後半》

10	看護助手業務における配置人員の定数化について 茅ヶ崎セントラルクリニック 茅ヶ崎Pipeline	11	しおさい通所リハビリテーションにおける 配車業務時間の短縮 介護老人保健施設しおさい　タイムバスターズ
12	回復期リハ病棟発信の住民運営型介護予防グループの立ち上げ ～地域住民と患者さんの居場所と出番をつくる～ 竹川病院　地域と関わり隊！貢献し隊！！	13	食事満足度アップ　ご入居者の笑顔の為に ライフケアガーデン湘南 チーム湘南
14	薬セットミスをなくそう！ 介護老人保健施設オアシス21 オアシス35億チーム薬善（ヤクゼン）	15	入浴における快適な時間の提供 ライフケアガーデン熱川 ライフケア温泉物語
16	排便コントロールの改善を目指して 熱川温泉病院 給食栄養委員会改善させ隊	17	医療処置や材料コストの算定モレや入力誤りの防止 石川島記念病院 電子カルテマスタ整備隊

全17事例の発表が終わった後には、座長の石巻健育会病院 院長 勝又先生から、全ての演題に対する丁寧な講評をいただきました。

その後、4名の外部審査員により別室で協議された結果、次の最優秀賞1題／優秀賞2題が選ばれました。

最優秀賞

身体抑制をしない！させない！
～抑制０への取り組み～

いわき湯本病院　チームZERO

いわき湯本病院では、長年、身体抑制を患者さんに施すことで医療安全を担保するという風土が定着していた。患者さんの身体抑制を解除するために様々な対策をしてきたが、最終的にゼロにすることができずにいた。しかし今回、徹底した分析と対策を実施し、抑制ゼロを目指し取り組みを行なったところ、抑制０を達成。委員会の役割も抑制解除から抑制をしないための情報の取りまとめと教育、意識の維持へと変化した。身体抑制解除を実現し、患者さんの生き生きとした姿を見ることが増え、スタッフもやりがいを感じ、患者さんの尊厳を守ることについて、深く考えるようになった。

優秀賞

入浴における快適な時間の提供

ライフケアガーデン熱川
ライフケア温泉物語

午前中の入浴は慢性的に混み合い、せっかくの熱川の源泉掛け流しの温泉に、ゆっくりと入浴できていなかった。そこで、入浴における快適な時間の提供を目的に、一人当たり入浴時間を１５分から２０分にすることを目標に取り組みを行った。対策として、午前中に加えて午後にも入浴を実施し、入浴時間を長くする目標は達成したが、その代わりにレクリエーションの実施回数が減少してしまった。そこで、レクリエーションについても対策を行い、結果、入浴とレクリエーションを両立させることができるようになった。

優秀賞

ケアワーカーによるオムツはずしプラン立案率の向上

石巻健育会病院
わん・つー・すてっぷ！

介護の質を高めることを目的に、ケアワーカーがアセスメントして計画を立案する「オムツはずしプラン」に着目し、プラン内容の充実を目指そうと考えたが、そもそも担当患者全員のプランを立案しているケアワーカーが33%しかいないことがわかった。そこで、「オムツはずしプラン立案100%」を目標に、講習会の開催や記載基準の作成など対策を行なった。すると、プラン立案100%を達成し、またプランの実行によりオムツはずしに繋がった患者さんからは「トイレに行けるようになってよかった！」などの声が聞かれるようになり、患者満足度の「介護士のケア」の項目が高いポイントになることにも繋がった。

審査委員長を務めて頂いた東邦大学医学部教授 長谷川 友紀先生からは、受賞の表彰を行なっていただいた後、以下のような主旨のお話をいただきました。

今回の最優秀賞と優秀賞を選ぶのは大変でした。いくつかのチームでは、新しい世界を作ろうとしているのではないかと私たち審査員が感じるほど、皆さんの到達度が高くなってきています。竹川理事長が冒頭におっしゃった、演題の設定もそうですし、また竹川病院さんやオアシス21さんのようにご自分の施設以外の外的要素を巻き込む活動などで、特にその印象を強く持ちました。拮抗している中で、取り組みの大事なポイントを押さえているということを高く評価しました。
来年は新たな病院・施設も活動に取り組まれることと思います。健育会グループの今年のテーマに「心を一つに」ということが掲げられていますが、「心を一つに」することも質の活動につながってくると思います。さらにTQM活動に活発に取り組まれていくことを期待しています。

セミナーの後には、懇親会を行いました。

懇親会の冒頭には、今年3回目となる介護施設の年間MVP賞の表彰式を行いました。これは介護施設で毎月実施している、『「手洗いうがいをしっかり行う」「業務改善を率先して行っている」などのテーマを決めて全職員の投票でその月のMVPを決めている取り組み』の受賞者の中から、年間MVP賞を得票で決定し、受賞した職員の功績を讃えるものです。各施設から選ばれた職員に私から直接表彰状を授与しました。

次に、今回のセミナーに来賓としてご参加いただいた、日本看護協会 副会長 齋藤 訓子氏より、「様々な職種の皆さんが、患者さん・ご利用者の生活のクオリティを上げるために、あるいは幸せのために取り組みを行い、そして自分たちも満足ある働きをしているということで、大変感銘を受けました。」という主旨のメッセージをいただきました。診療報酬や介護報酬の改定などに実際に関わられている齋藤副会長にご参加いただくことで、現場の声を届けることができ、また健育会の取り組みを知っていただくことができたのは、良かったと感じました。

その後、健育会グループの顧問弁護士 宮澤 潤先生から、以下のようなメッセージをいただいた後、乾杯のご発声をいただきました。

みなさんの発表を聞かせていただき、ありがとうございました。
今日は、患者さん・ご利用者に向けた取り組みに加え、組織内部での改善の取り組みも多くあったことが印象的でした。やはり、良い医療・介護は健全な経営の中から生まれてくるのだと感じました。

その後、参加者全員で美味しい食事を楽しみながら、交流のひと時を過ごしました。

そして、最後の中締めの挨拶は、健育会グループ 副理事長 岩尾 總一郎先生よりいただきました。

土曜の午後の長時間にわたって、ご苦労様でございました。私もここに参加させていただくようになって5年が経ちましたが、毎年毎年レベルが上がって、これからどうなっていくのかと、大変期待しております。私たちは、昨日よりも今日、今日よりも明日と進化していかなければなりません。TQM活動を通じて進化し、そして働く人たちの「働きがい」そして「この組織にいてよかった」と思えるチーム作りにつなげていければと思います。また、今日は日本看護協会 齋藤副会長にお声がけし、ご出席いただきました。このように私たちが民間だけれども頑張っているということを、これからも外部に発信していくのも私の勤めと考えています。

岩尾先生には挨拶の最後に万歳三唱をしていただきました。今年のスローガンは「今、心を一つにビジョン達成を目指そう！」ですが、万歳三唱の瞬間、まさに会場に集まった全員で一つになったような一体感を得ることができました。

セミナー冒頭に話した通り、TQM活動を超えて、日常の業務の中でTQMの要素を取り入れ、さらなる医療・介護の質の向上を目指して欲しいと考えています。そのことがひいては、次回TQM活動発表セミナーでの活発な発表・議論につながっていくことと期待しています。